

輸出が伸びています

湿布薬の輸出

- 神戸港 数量は 6 年連続、金額は 3 年連続全国シェア1位！
- 神戸港 数量・金額ともに 6 年連続の伸び！
- 2023 年は全国で数量・金額ともに過去最高！

1. はじめに

寒さが厳しく外出も億劫になる季節です。お正月に食べ過ぎて体重が増えたカスタム君、ダイエットのために運動を始めたのですが、初日から無理をしすぎてさっそく「湿布薬」のお世話になったようです。

「湿布薬」とは、一般に、布やプラスチックなどの薄いフィルムに、有効成分と基材の混合物を薄く延ばして成型された製剤で、痛みを感じる箇所に貼り付け効果を発揮するものをいいます。

近年、日本から輸出される「湿布薬」の輸出が伸びており、2023 年における全国の数量・金額は過去最高の数値となりました。

今回の特集は、筋肉痛や腰痛など体の痛い箇所にペタリと貼り付ける「湿布薬」を取り上げました。



本資料でいう「湿布薬」は、輸出統計品目表の 3005.10-100 の「ばんそうこうその他のプラスター」を集計したものです。

- ・ 本資料における「過去最高」は、比較可能な 1988 年以降のデータを基礎として比較したものです。
- ・ 本資料における 2023 年以前の数値は確定値、2024 年 1-10 月の数値は確報値です。
- ・ 本資料における重量とは、内装を含めた重量をいいます。

2. 輸出動向

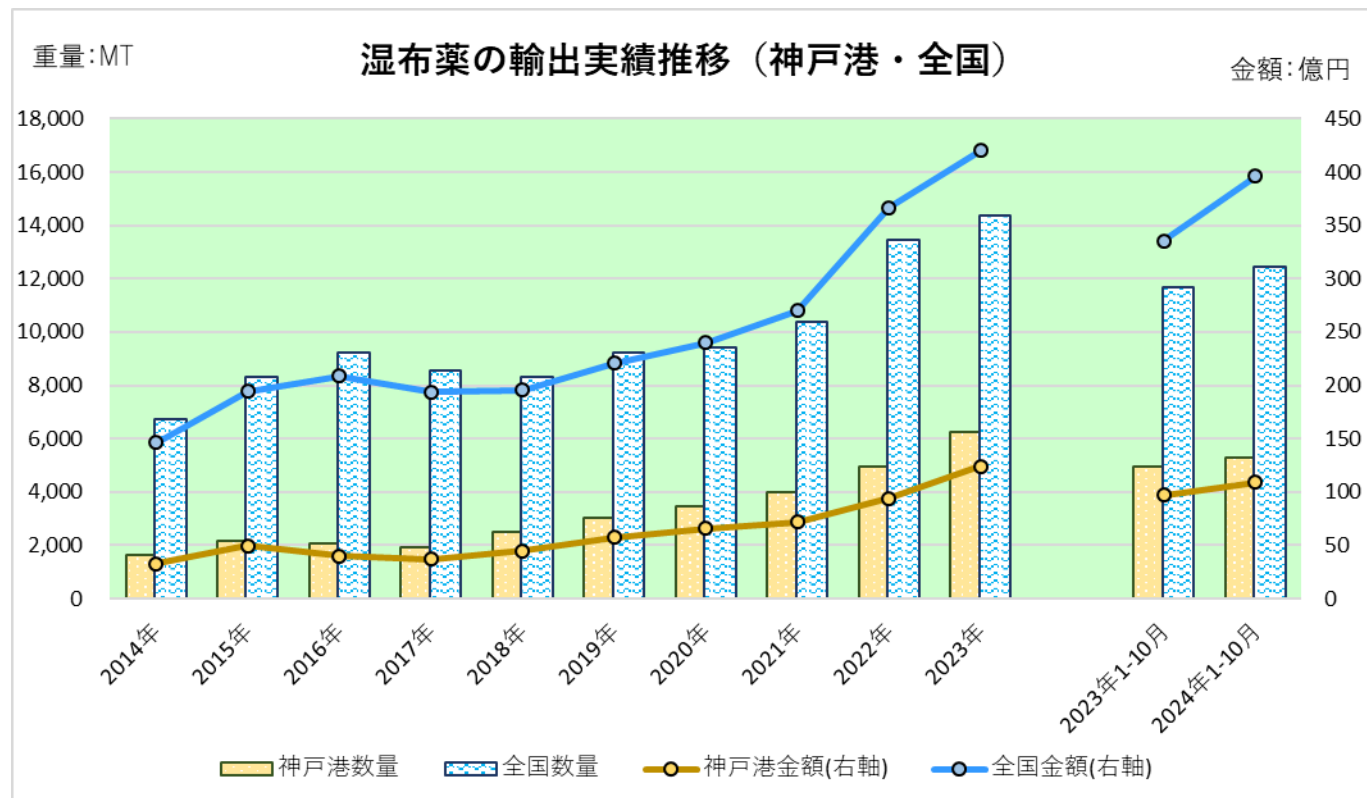
(1) 輸出実績推移

2023 年の湿布薬の輸出は

〔神戸港〕 数量 6,230 トン、金額 124 億 1 千 5 百万円

〔全 国〕 数量 14,367 トン、金額 420 億円

となり、神戸港における輸出数量は過去最高を記録しました。



過去 10 年間の輸出実績をみると、神戸港は 2014 年から 2023 年にかけて数量・金額ともに 3.8 倍となりました。全国では数量が 2.1 倍、金額が 2.9 倍となっています。

欧米では、これまで湿布薬が一般的ではなかったそうですが、徐々に利便性や効能が消費者に理解され、特にアメリカではオピオイド問題（麻薬系鎮痛薬の過剰摂取問題）の反動として湿布薬に注目が集まり需要が高まっているとの事です。

なお、海外、特に中国、韓国、台湾でも湿布薬を製造するメーカーが出てきており、日本製湿布薬より安価で販売されるため価格の面ではそれらに太刀打ちできないところもあるものの、先駆者としての経験や長年のノウハウにより商品の品質は優越していることから高いシェアを保っているそうです。

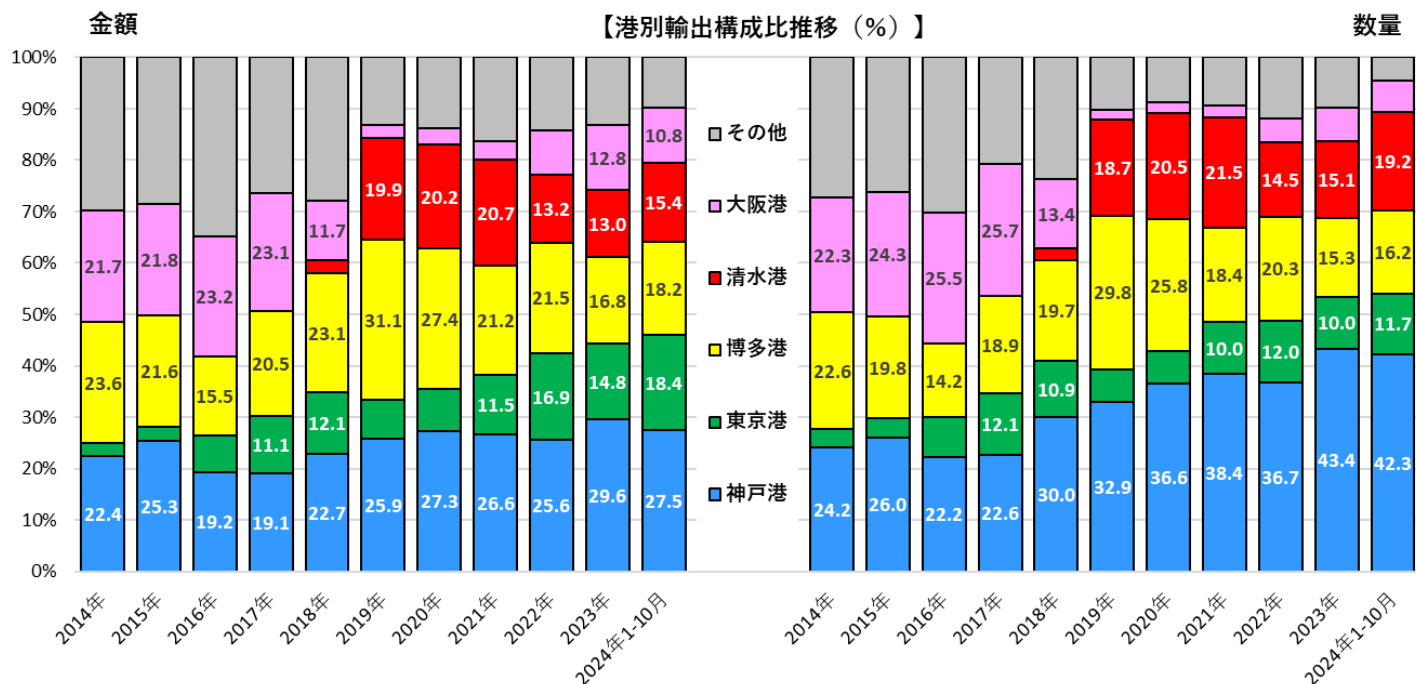
【コラム 1】冷湿布と温湿布

冷湿布は主に炎症や痛みの抑制・治療を目的としており、筋肉痛や肩こりなど急性の痛みの緩和に使われています。メントールなどの成分により皮膚の冷感点を刺激し冷たく感じさせます。

温湿布は主に血行の改善を目的としており、トウガラシエキスなどの作用により皮膚の温感点を刺激しているものです。

(2) 港別輸出実績

2024 年 1～10 月の全国における神戸港の輸出シェアは、金額が 27.5%、数量が 42.3%を占め、全国 1 位となっています。神戸港の金額は 2021 年から 2023 年まで 3 年連続、数量は 2018 年から 2023 年まで 6 年連続全国 1 位となっています。



輸出港として神戸港が選ばれる理由は、製造工場から比較的近距離にあり、輸出先への航路の充実、船便の本数が多いこと、運送に使用するリーファーコンテナ（冷蔵コンテナ）の供給も安定していることなどが挙げられています。医薬品の品質管理・保証という観点から、輸送中の温度変化を避けるため、リーファーコンテナを使用して商品を定温に保つなど温度管理には特別配慮しているそうです。

また、製造工場が神戸港から離れている所でも、工場近辺の港だけでは船便が足りず、船便の豊富な神戸港まで貨物の一部を運送し、輸出を行っているとの事でした。

神戸港の金額比率に比べ、数量比率が高い理由は、輸出される商品の違いで、単価の高い商品が神戸港以外の港（東京港や博多港、その他空港など）から多く輸出されていること、また、神戸港から輸出されている貨物は、病院などで処方されるタイプの厚手のパップ剤の比率が高く、薄めのテープ剤より重量が重いことなどが理由にあるようです。

【コラム 2】「パップ剤」と「テープ剤」

湿布薬の形状として「パップ剤」と「テープ剤」があります。

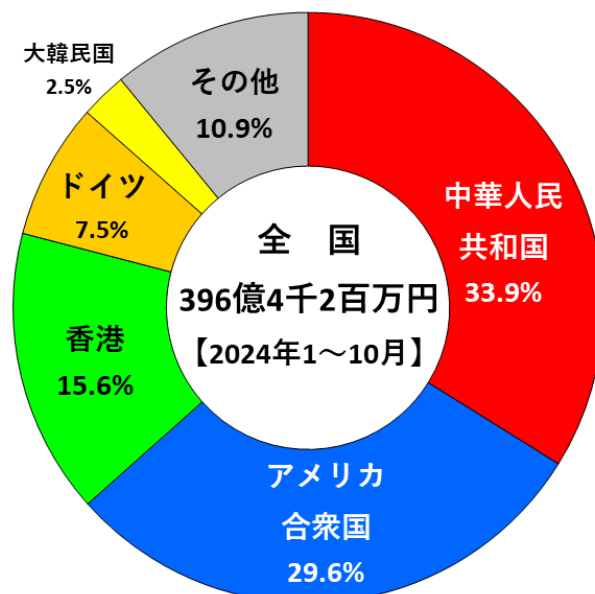
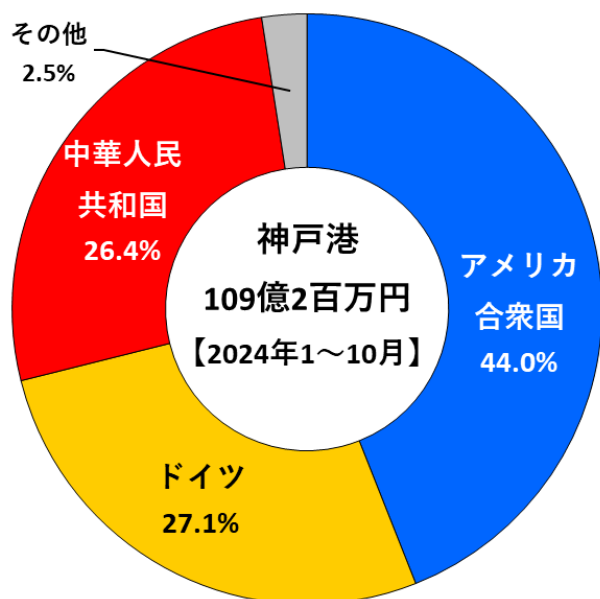
「パップ剤」は水分を多く含む湿布薬です。プルプルと柔らかい膏体があり、貼るとひんやりとした感触があります。テープ剤に比べると厚みがあり肌に優しいという特徴があります。

現在のように、布と薬剤が一体化して直ぐに患部に貼付できる成形パップ剤は日本発祥と言われています。

「テープ剤」は水分を含んでいない薄いシート状になっています。さらに薄いものはプラスター剤とも呼ばれています。密着性が高く、剥がれにくいという特徴があり、薄くて伸縮性があり肘や膝など曲げ伸ばしをする部位に貼るのに適しています。

(3) 国・地域別輸出実績

2024年1～10月は、神戸港からはアメリカ合衆国、ドイツ、中華人民共和国ほか計20カ国・地域へ、全国からは、中華人民共和国、アメリカ合衆国、香港、ドイツほか計53カ国・地域向けに輸出がありました。



日本製の湿布薬が多くの人に受け入れられている要因として、業界の方からは以下の話がありました。

- ・アメリカにおいては、オピオイド医薬品（麻薬系鎮痛薬）の過剰摂取問題で、非オピオイド薬の需要の高まりがあり、当初からそのような成分を含有しておらず、高い品質も認められていた日本製の湿布薬が注目を集め、市場をけん引している。
- ・欧米では、肩こりや腰痛でも内服の鎮痛薬や塗り薬を使用する人が多く、湿布薬は一般的ではなかったが、現地での広告宣伝を積極的に行ったことで、湿布薬の利便性が受け入れられ、順調にシェアを伸ばしている。
- ・アジア諸国においては、「日本製医薬品＝高品質」の認識が根強く、好んで日本製の湿布薬を購入するユーザーが多い。
- ・輸出先の販売会社からの要望や、輸出相手国の規制等も鑑み、現地のニーズに応えられるよう、製品の開発を行っている。

業界では、今後も海外での需要は高く、輸出は伸びていくと見ているそうです。

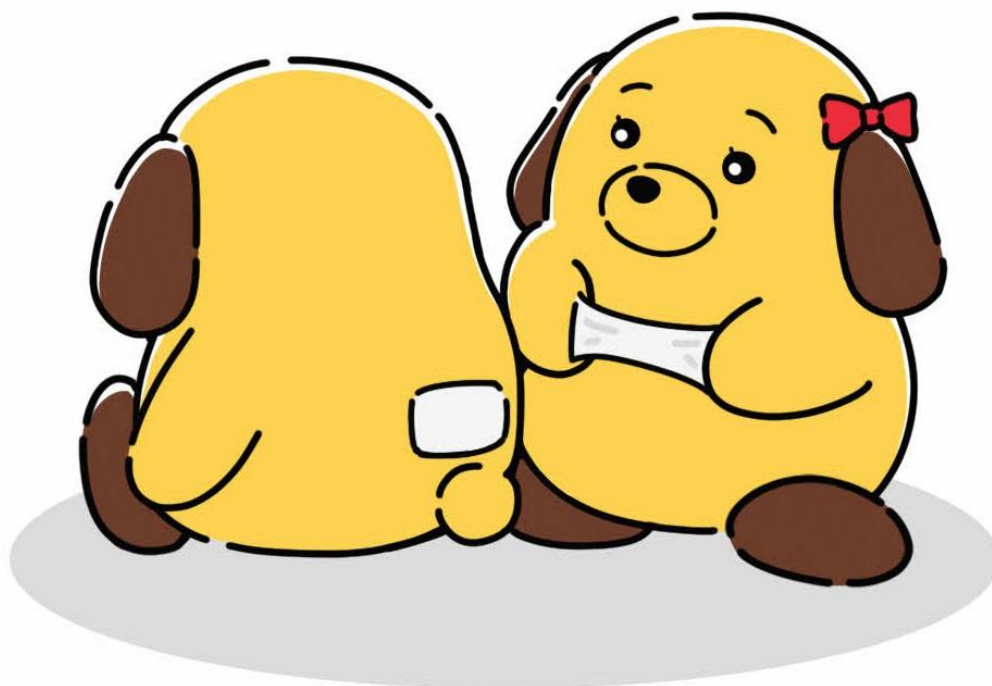
3. おわりに

湿布薬は、痛みや炎症がある部分に貼ることで、患部に薬効成分を集中して届けことができ、局所的に作用するため全身性の副作用が出にくいといった特徴があるとされています。

皮膚に貼るだけで効果が得られるため、手軽に使用することができ、軽い肩こりや筋肉痛など、病院へ行くほどでもない痛みのケアにも適しています。

業界は、「経皮吸収技術」を他の治療領域にも応用して、病気に苦しんでいる多くの人たちに届けられるよう、日々研究を進めているとのことです。

今後も、日本の湿布薬が世界中の多くの人たちの痛みを優しく癒し、健康的な生活を送ることができるよう、そして輸出がますます伸びることを期待したいと思います。



○本資料を転載するときは、神戸税関の資料に基づく旨を注記してください。

○本資料に関しては、以下にお問い合わせください。

神戸税関調査部調査統計課 TEL 078-333-3065

神戸税関ホームページ <https://www.customs.go.jp/kobe/>



税関イメージキャラクター
カスタム君



神戸税関イメージキャラクター
カスタムちゃん

湿布薬の輸出数値表＜輸出統計品目番号 3005.10-100＞

（数量：MT 金額単位：百万円）

◆輸出実績推移

年	全国				神戸港					
	数量		金額		数量			金額		
		前年比		前年比		前年比	全国比		前年比	全国比
2014年	6,733	72.4%	14,651	70.4%	1,628	39.7%	24.2%	3,279	33.8%	22.4%
2015年	8,335	123.8%	19,459	132.8%	2,169	133.2%	26.0%	4,929	150.3%	25.3%
2016年	9,224	110.7%	20,848	107.1%	2,052	94.6%	22.2%	4,006	81.3%	19.2%
2017年	8,558	92.8%	19,385	93.0%	1,932	94.2%	22.6%	3,701	92.4%	19.1%
2018年	8,293	96.9%	19,531	100.8%	2,484	128.6%	30.0%	4,443	120.0%	22.7%
2019年	9,208	111.0%	22,054	112.9%	3,033	122.1%	32.9%	5,704	128.4%	25.9%
2020年	9,400	102.1%	24,000	108.8%	3,437	113.3%	36.6%	6,550	114.8%	27.3%
2021年	10,398	110.6%	26,975	112.4%	3,996	116.3%	38.4%	7,179	109.6%	26.6%
2022年	13,445	129.3%	36,696	136.0%	4,941	123.6%	36.7%	9,379	130.6%	25.6%
2023年	14,367	106.9%	42,000	114.5%	6,230	126.1%	43.4%	12,415	132.4%	29.6%
2024年1～10月	12,457	106.8%	39,642	118.3%	5,266	106.3%	42.3%	10,902	112.6%	27.5%

◆港別輸出実績（金額）

年	全国	神戸港		東京港		博多港		清水港		大阪港		その他	
			全国比		全国比		全国比		全国比		全国比		全国比
2014年	14,651	3,279	22.4%	376	2.6%	3,456	23.6%	－	－	3,185	21.7%	4,355	29.7%
2015年	19,459	4,929	25.3%	549	2.8%	4,197	21.6%	－	－	4,239	21.8%	5,545	28.5%
2016年	20,848	4,006	19.2%	1,490	7.1%	3,237	15.5%	－	－	4,844	23.2%	7,270	34.9%
2017年	19,385	3,701	19.1%	2,144	11.1%	3,968	20.5%	－	－	4,469	23.1%	5,104	26.3%
2018年	19,531	4,443	22.7%	2,369	12.1%	4,507	23.1%	487	2.5%	2,279	11.7%	5,447	27.9%
2019年	22,054	5,704	25.9%	1,657	7.5%	6,855	31.1%	4,386	19.9%	550	2.5%	2,901	13.2%
2020年	24,000	6,550	27.3%	1,943	8.1%	6,567	27.4%	4,851	20.2%	765	3.2%	3,324	13.8%
2021年	26,975	7,179	26.6%	3,111	11.5%	5,727	21.2%	5,584	20.7%	987	3.7%	4,387	16.3%
2022年	36,696	9,379	25.6%	6,208	16.9%	7,889	21.5%	4,837	13.2%	3,139	8.6%	5,243	14.3%
2023年	42,000	12,415	29.6%	6,202	14.8%	7,055	16.8%	5,457	13.0%	5,384	12.8%	5,488	13.1%
2024年1～10月	39,642	10,902	27.5%	7,303	18.4%	7,208	18.2%	6,096	15.4%	4,293	10.8%	3,842	9.7%

◆港別輸出実績（数量）

年	全国	神戸港		東京港		博多港		清水港		大阪港		その他	
			全国比		全国比		全国比		全国比		全国比		全国比
2014年	6,733	1,628	24.2%	242	3.6%	1,521	22.6%	－	－	1,500	22.3%	1,842	27.4%
2015年	8,335	2,169	26.0%	312	3.7%	1,649	19.8%	－	－	2,021	24.3%	2,183	26.2%
2016年	9,224	2,052	22.2%	724	7.8%	1,306	14.2%	－	－	2,349	25.5%	2,793	30.3%
2017年	8,558	1,932	22.6%	1,034	12.1%	1,616	18.9%	－	－	2,198	25.7%	1,778	20.8%
2018年	8,293	2,484	30.0%	905	10.9%	1,637	19.7%	190	2.3%	1,108	13.4%	1,970	23.8%
2019年	9,208	3,033	32.9%	589	6.4%	2,746	29.8%	1,722	18.7%	184	2.0%	934	10.1%
2020年	9,400	3,437	36.6%	583	6.2%	2,428	25.8%	1,924	20.5%	211	2.2%	816	8.7%
2021年	10,398	3,996	38.4%	1,043	10.0%	1,915	18.4%	2,238	21.5%	230	2.2%	976	9.4%
2022年	13,445	4,941	36.7%	1,619	12.0%	2,723	20.3%	1,943	14.5%	610	4.5%	1,609	12.0%
2023年	14,367	6,230	43.4%	1,435	10.0%	2,198	15.3%	2,164	15.1%	921	6.4%	1,418	9.9%
2024年1～10月	12,457	5,266	42.3%	1,461	11.7%	2,020	16.2%	2,389	19.2%	754	6.1%	568	4.6%

(金額単位：百万円)

◆国・地域別輸出実績（全国金額）

年	全世界	中華人民共和国		アメリカ合衆国		香港		ドイツ		大韓民国		その他	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
2014年	14,651	825	5.6%	5,877	40.1%	909	6.2%	3,010	20.5%	272	1.9%	3,758	25.7%
2015年	19,459	1,160	6.0%	8,496	43.7%	958	4.9%	4,217	21.7%	404	2.1%	4,225	21.7%
2016年	20,848	2,131	10.2%	7,095	34.0%	1,199	5.8%	5,075	24.3%	484	2.3%	4,863	23.3%
2017年	19,385	2,761	14.2%	6,953	35.9%	1,161	6.0%	4,159	21.5%	615	3.2%	3,736	19.3%
2018年	19,531	3,616	18.5%	8,740	44.7%	1,419	7.3%	1,988	10.2%	649	3.3%	3,118	16.0%
2019年	22,054	5,145	23.3%	9,025	40.9%	1,559	7.1%	2,611	11.8%	674	3.1%	3,040	13.8%
2020年	24,000	5,986	24.9%	9,298	38.7%	2,241	9.3%	2,633	11.0%	639	2.7%	3,204	13.3%
2021年	26,975	8,161	30.3%	8,601	31.9%	3,116	11.6%	3,044	11.3%	935	3.5%	3,118	11.6%
2022年	36,696	11,236	30.6%	12,653	34.5%	4,131	11.3%	3,578	9.8%	1,114	3.0%	3,985	10.9%
2023年	42,000	14,392	34.3%	11,564	27.5%	6,524	15.5%	4,289	10.2%	930	2.2%	4,301	10.2%
2024年1～10月	39,642	13,427	33.9%	11,717	29.6%	6,197	15.6%	2,955	7.5%	1,008	2.5%	4,337	10.9%

◆国・地域別輸出実績（神戸港金額）

年	全世界	アメリカ合衆国		ドイツ		中華人民共和国		オーストラリア		イタリア		その他	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
2014年	3,279	2,392	73.0%	2	0.1%	202	6.2%	55	1.7%	31	0.9%	597	18.2%
2015年	4,929	4,072	82.6%	12	0.3%	44	0.9%	62	1.3%	—	—	739	15.0%
2016年	4,006	2,480	61.9%	11	0.3%	88	2.2%	60	1.5%	—	—	1,367	34.1%
2017年	3,701	2,477	66.9%	—	—	133	3.6%	56	1.5%	6	0.2%	1,030	27.8%
2018年	4,443	3,904	87.9%	75	1.7%	126	2.8%	27	0.6%	13	0.3%	298	6.7%
2019年	5,704	2,573	45.1%	2,557	44.8%	200	3.5%	63	1.1%	23	0.4%	288	5.1%
2020年	6,550	3,234	49.4%	2,628	40.1%	132	2.0%	36	0.5%	26	0.4%	495	7.6%
2021年	7,179	3,636	50.7%	3,039	42.3%	62	0.9%	79	1.1%	—	—	362	5.0%
2022年	9,379	4,508	48.1%	3,562	38.0%	911	9.7%	171	1.8%	39	0.4%	187	2.0%
2023年	12,415	4,950	39.9%	4,278	34.5%	2,754	22.2%	137	1.1%	105	0.8%	190	1.5%
2024年1～10月	10,902	4,796	44.0%	2,955	27.1%	2,882	26.4%	109	1.0%	55	0.5%	105	1.0%

